

「次世代にタバコの害を引き継がせない」宣言

近年、喫煙・受動喫煙の有害性が明らかになり、タバコ対策は公衆衛生上の最重要課題の一つとして国際的に認識されています。タバコ対策として、それぞれの地域において「喫煙・受動喫煙の有害性に関する周知啓発」「受動喫煙の防止」「喫煙者への禁煙支援」「喫煙防止教育」など様々な対策が実施されていますが、中でも最も力を入れるべきは、子どもたちが将来、加熱式タバコを含むすべてのタバコ製品に手を染めないようにする取り組みだと私たちは考えます。

これは、子どもたちの健康を守るためであることはもちろんですが、今の子どもたちが将来にわたって一人も喫煙しない人生を歩めば、将来の喫煙率は確実に減少してタバコのない社会を達成できるからです。そうすれば、わが国のタバコ問題は自動的に消滅するのです。

現在の大人たちの喫煙という悪弊が子どもたちに連鎖しないよう、タバコの害を引き継がせないように取り組むことが私たち大人に課せられた使命だと考えます。

そのためには、学校等での喫煙防止教育を更に充実させるだけでなく、大人が子どもたちに受動喫煙させることがないように、更には大人が率先垂範して禁煙するなど、子どもたちが育つ環境からタバコを完全になくす意識が必要です。さらに、タバコを吸い始めない環境整備として、タバコ税・価格の値上げをはじめ、警告表示や広告等の規制の強化を図ることも重要です。

今、「子どもを守る」ことがわが国の大きな課題となっています。事故や犯罪、虐待などから子どもたちを守ることはもちろんですが、タバコから子どもたちを守ることも真剣に考える必要があります。子どもたちこそ未来を担う国の宝であり、子どもを大切にしない国に未来はありません。

子どもたちを真に大切に守り育てるために、「次世代にタバコの害を引き継がせない」取り組みに全力を尽くすことをここに宣言します。

2022年2月27日

第 31 回日本禁煙推進医師歯科医師連盟学術総会大会長

日本禁煙推進医師歯科医師連盟会長

第 31 回日本禁煙推進医師歯科医師連盟学術総会

加治 正行

齋藤 麗子

参加者一同